

肉用鶏のオス化により鶏肉生産量を飛躍的に向上させる 革新的技術の開発

代表機関：静岡大学
実施年度：2025年度～2026年度（フェーズ0）
キーワード：肉用鶏、雌雄産み分け、増肉効果

研究代表者：笹浪知宏



鶏肉の生産効率は極限にまで向上されており、これ以上の増肉効果は期待できない。また、昨今の飼料価格の高騰および鳥インフルエンザの蔓延により、養鶏農家の経営は非常に厳しい状況に追い込まれている。本研究では、肉用鶏の性をより成長の速いオスに偏らせることで、飛躍的に鶏肉生産を増加させる革新的技術の開発し、持続可能な養鶏産業の構築に貢献することを目的とした。

背景・目的 鶏肉の生産は徹底的に効率化されている

日本の養鶏産業は確固とした基盤を有し、鶏肉・鶏卵の生産効率は極限にまで向上している。鶏肉・鶏卵の価格は上がらない一方で、昨今の飼料価格の高騰、鳥インフルエンザの蔓延の煽りを受け、養鶏農家の経営はきわめて苦しい。肉用鶏（ブロイラー）では、メスよりもオスの方が成長が速く、且つ飼料効率が良い。本研究では、ブロイラーをオス化する技術開発をさらに進め、産まれてくるオスヒナの割合を高めることを目標とし、このテクノロジーブレイクスルーによりブロイラーの鶏肉生産効率を飛躍的に増加させることを目的とした。

目標 肉用鶏のオス化で鶏肉を増やす

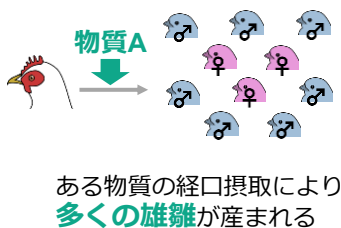
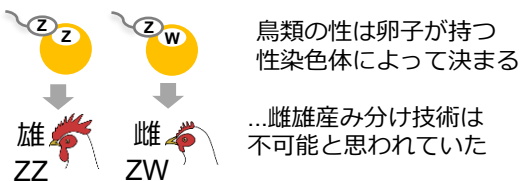
ウズラでの検討を行い、オスヒナの生産率を向上させることが研究開発の目標である。そのための最適投与条件を決定することに加え、アメリカミズアブという極めて嗜好性の高い昆虫に活性物質を含ませてサプリメント（機能性飼料）として給餌する方法を開発する。

Q. 鶏肉の生産効率を飛躍的に向上させるには？

A. 成長が速く飼料効率が良い雄をたくさん産ませればよい

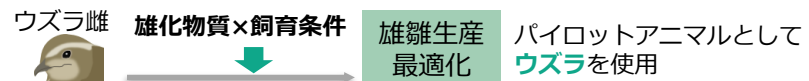
研究内容 オス化処理の最適化とサプリメント化

技術シーズの内容



研究開発の内容

（研究項目1）雛の雄化を誘導する物質および最適処理条件の決定



（研究項目2）高嗜好性昆虫サプリメント“オスアブ”の開発



<代表機関概要> 静岡大学

■ HP： <https://www.shizuoka.ac.jp/>

■ 所在地： 静岡県静岡市駿河区大谷836

■ 連絡先： atsasan [アット] shizuoka.ac.jp [アット]を@に置き換えてください。